からしだね

vol.29
2017 年 5 月

与える福祉ではなく、 その人にとって必要なことをそのひとの自立に向けて支援する

こいしろの里　ホームページ公開中！ こいしろの里 検索

http://betesta.org

利用者との架け橋

施設長　李在一

支援にマニュアルがあるとすれば、それは個々の障害特性からの対応を具体的に示すということになります。具体的対応は必要なことですが、なぜそれが必要となるのかという解説もあったほうがよいでしょう。しかしそうした支援を実施する前提にはさらに必要なことがあります。これはマニュアル化できる性質のことではありません。それが利用者との関係性です。支援する側の専門職としてのあなたの立場と、支援を受ける側である利用者の立場。その両者の関係性を客観的に捉えなおす必要があります。新人に向ける言葉として、本日はこの点を述べたいと思います。

さて、利用者を前にした「あなた」は、如何なる存在でしょうか？あなたはこれまで利用者を前にした「あなた」の存在について考えたことがあるでしょうか？というのは利用者を前にした「あなた」は、「あなた」の知っている「あなた」ではないのです。利用者を前にした「あなた」は、優生思想に満ちた競争社会を生き、まわりの空気を過敏に読み取ってきた健常者という「あなた」。すなわち世にいう「常識」に満ちているのが「あなた」なのです。利用者は「あなた」が生きてきたそういう同じ世界に存在しながら、あなたの知らないまったく別次元の世界を生きてきたのです。ですから「あなた」と利用者の両者は同じ世界にいながらも、両者の関係性を考えると、そこには「あなた」が知らない途方もない距離があるといえます。障害特性が決定される基準は、「あなた」が生きてきた世界の基準であって、利用者が生きている世界の基準ではありません。だからあなたの「常識的な基準」で、利用者との関係性を築こうとすることは完全にまちがっています。それは良好な関係ではありません。多くの場合、そうした不都合な関係から生じる負担は利用者の側が苦しみとして背負うことになります。「障害者などいない。いるのは障害を作り出す健常者たちだ。」といわれていることにも、この関係性は大きく作用しています。

――世界は広いのです。私たちはそのことを知らなくてはいけません。私たちの常識がおさまるほど世界は決して小さくないのです。端的にいうならば世界は私たちが理解できないほど広いのです。次元の異なる世界を生きてきた利用者との架け橋は、「笑顔」と「やさしさ」だけです。どれだけ支援が上達しようが、この架け橋という関係性が基本なのです。このことを、利用者と接する新人を含むすべての人に贈ります。

入社式

支援員　倉井祥基

2017年4月3日に入社式が行われました。今年の春、こいしろの里は4名の新入職員を迎えました。この新入職員のみなさんは、新品のスーツに身を包み、こいしろの仲間としての希望や期待を膨らませていることでしょう。

入社式が始まると、職員も利用者さんも全員が意識を舞台に集中し、新しい仲間を迎える準備が整いました。挨拶、入社辞令の交付と式が進むにつれて4名の新入職員も緊張がほぐれてきたようでした。

既存職員、両主任からの激励の言葉では新入職員に向けた熱いエールを送る様子が印象的でした。

次に入所利用者さんから代表の挨拶がありました。代表の利用者さんは元気な大きい声で新入社員の皆さんへ挨拶をしてくれました。

最後に既存職員と利用者のみなさんで歓迎の歌を披露しました。歓迎の歌は一週間前から利用者さんと練習に練習を重ねてきました。ピアノの伴奏に合わせて「ビリーブ」を歌いました。歌の大好きな利用者さん達は楽しそうにリズムに合わせ、身体を揺らしながら元気よく歌ってくれました。会場の空気が歓迎ムードに包まれ、職員、利用者、新入職員が一体となっているようでした。きっと、新入職員のみなさんは利用者のみなさんの歌声に背中を押されたことでしょう。

最後には全員で記念撮影を行いました。当然ですが、新入職員を入れて全員がそろって撮る写真は今年度初めてです。新しい時代の始まりとともに、素敵な記念写真となりました。これからこいしろの里は新入職員4名を含め、職員全員で協力しあい、さらに良い施設にしていきたいと思います。

美フォーアフター・ファッションショーを行いました

支援員　馬場雪乃

２０１７年２月２５日「美フォ→アフター」と題した、ファッションショーを開催しました。なぜ、今回この「美フォ→アフター」を開催したのかというと、普段から利用者さんたちは自分で服を選ぶことができても、毎回同じようなスタイルになってしまったり、柄と柄で組み合わせてしまったり、暗い服ばかり着てしまっていたり・・・と。そこで、職員で服装を変えていこうという話しになり、今回このファッションショーが開催されました。

職員がモデルとなる利用者さんに合った服を選び、女性は大人可愛く、男性はクール・カジュアルになるよう考え準備しました。ステージも風船で可愛く飾り、彩りました。今回会場を盛り上げていたのは、バックダンサーとして踊っていた職員です。職員たちはかっこつけてモデルの利用者さんたちに負けじと一生懸命踊っていましたが、かっこよくなった利用者さんや可愛くなった利用者さん達には到底かないませんでした。

ランウェイを歩く際には、音楽が響き、会場全体からの拍手で盛り上がり、モデルさんがジャケットの中の服を見せたり、ポーズを決めたりすると会場には歓声が沸き上がり、さらに盛り上がりを見せました。このとき、見渡した会場にはいつも以上に輝いた世界が映っていたと思います。そして、歓声を

もらったモデルさんたちは「これからもおしゃれする！」と言って意気込みを述べました。また、今回モデルさんじゃなかった利用者さんも「次は選ばれるようにおしゃれを頑張る！」と次回への期待を胸に抱きました。これを見ていた私たち職員も「自分たちから明るい服装をして、こいしろの里を活発にしていきたいね。」と声を揃えました。

今回、このファッションショーが開催されたことによって職員の衣服への関心が高まりました。私たち職員が変化したら、利用者さんの意識も変化すると思うので、利用者さんが服に興味を持つよう努めていきたいです。そのために、さらに余暇外出などのおしゃれする機会を増やし、今でも明るいこの『こいしろの里』をファッションを通してもっともっと

4月12日、お花見に行きました！

楽しかったよ！！

まあるの竣工式・内覧会・見学会を行いました

支援員　片岡督

こいしろの里では、４月８日（土）に新しい障害者通所施設、「まある」の内覧会を行いました。

朝からあいにくの小雨でしたが、その後は雨もやみ、無事に滞りなく終了することができました。

当日は、衆議院議員の田村憲久様・松阪市長の竹上真人様、県議会議員、市議会議員、福祉施設関係者、保護者の方など、総勢６０名以上の方々がご多忙中にもかかわらず、ご参列くださいました。

まず、司会の竹田支援員から「まある」という呼称の由来について説明がありました。「まある」のロゴは在宅の保護者の方に考案していただいたものです。それは、「循環」や「良し」の意味（まわっていく）（まる）を意味し、まわるよまわる、笑顔の輪、みんなの笑顔が輝く場所、という切なる願いが込められています。

その後、開式の言葉として、伊藤副施設長より会場のシリア内戦に関したパネル展示の説明がありました。それは何の罪もない子どもたちが現在進行形で無残に虐殺されていく様をソーシャルワーカーの立場から、あってはならないことだと社会に平和を訴えていく姿勢を示しました。また会場で流していた映像は「さよならCP」というドキュメンタリー映画でした。CPというのは脳性麻痺のことです。

この映像は「青芝の会」の論理的支柱であった横田氏を写したドキュメンタリーの復刻版です。こうしたパネルや映像は、今後の法人が知的障害者の人としての尊厳を考えていく上で無視することができない象徴的なものとして法人の決意を示したものです。

そして李理事長からは、「まある」建設の発端となった２０１２年の近隣でおきた事件について述べられました。竣工式というおめでたい場で、あえて６０代の母親が３０代の娘の首を絞殺した事件について語るのは、周囲に不快な異和感を与えたかも知れないと式典が終わった後に李理事長は述べながらも、それでもその事件を述べないではいられないと語っていました。それは近所にいながら福祉をその母娘にとどけることができなかった後悔と無念さ。その現実こそが自分たちの福祉の姿だとしてそれを変革していくための「はじまり」であり「きっかけ」にするための「まある」だと李理事長は述べました。

さらに職員を代表して倉井支援員から、私たちの「心」や「願い」をとどけるために「まある」においてラジオ局を開設して、社会に対して能動的発信力をつけていく方針が語られました。これはソーシャルメディアとして発展させていくつもりです。

また地域における施設拡大の困難な仕事を見事に果たした施工会社に、李理事長から感謝状が贈呈されました。

最後に小林事務局長から「まある」建設に当たっては自己資金と銀行融資で賄うことができたとの報告がありました。

まあたらしい施設の白壁が雨あがりのしずくに濡れて燦然（さんぜん）と輝きを放っていました。それはあたかもこの施設に希望の光が煌々（こうこう）とふりそそぎ、雄々しく羽ばたくかのように。職員は新事業所の竣工に胸を躍らせるとともに、重責を担った気持ちをあらたにしました。通所していただく利用者の方たちに適切で価値ある支援ができるように、今後もますます精進していきたいと考えております。なにとぞご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「まある」という建物はできました。「仏つくって魂いれず」といいますが、私たちが行う福祉の魂とは何であるのか、問われながら問い続けていく姿勢でのぞんでいきます。

まあるの設備紹介・実際に稼働しているようす

支援員　竹田美香、片岡督、吉山真

４月１３日より放課後等デイサービス『びーとる』は、新設された障害者通所施設『まある』内にて活動をしています。生まれ変わった『びーとる』は“楽しく学ぶ”をテーマとした学習スペースと、“楽しく身体を動かす”をテーマとした運動スペースの二つに分かれています。

学習スペースではホワイトボードを使って全員で課題学習に取り組んだり、牛乳パックや新聞紙、ペットボトルを使って工作に取り組んだりしています。工作では、一つ一つの工程を全員で読み合わせてから取り組むようにしています。

運動スペースでは新たに設置されたボルダリング、滑り台、ハンモックにみんな夢中になって笑顔で身体を動かしています。ボルダリング、滑り台の下には安全のため運動マットを敷き、子どもさんが楽しく、のびのびと身体を動かしてもらえるようにしています。

子どもさんたちがこの『びーとる』で楽しい時間を過ごし、すくすくと成長していただけるよう支援を続けていきます。

４月１０日より、新しく完成した『まある』の作業室で内職作業を実施しております。これから真新しい机に、椅子、きれいな部屋で作業をすることになりました。

新しい部屋に入った利用者の方からは、「きれいな部屋で作業できてうれしい！」という歓声が上がりました。誰でもそうですが、新築の家や新しい仕事場を使えるということは非常に嬉しいことです。『まある』は建物を新しくするだけでなく、利用者の「やる気」や「向上心」を仕事に取り入れる効果もあると考えます。

現在、就労継続支援Ｂ型作業所として、新しい作業も取り入れ、より充実した内容の作業を提供し、就労に向けた支援ができるように取り組んでいます。今後は内職作業だけでなく、新商品の開発や施設外実習もどんどん取り入れていきますのでご期待ください。

この度､『まある』施設内にパン工房ができました。

４月８日には内覧会も無事終わり、多くの方に見学していただきました。

このパン工房室内では施設を利用される方と一緒にパンを作って、地域の方に販売したり喫茶『ぷらな』にて軽食として提供していきます。

お気軽にお客様が立ち寄れ、地域の交流を楽しんで頂けるお店を目標としています。

これからご来場して頂く方々と、これまで協力して頂いた各関係者の皆さんに喜んで頂けるようなスペースとして展開していきますので、期待していてください。

現在５月６日の OPEN イベントに向けて、色んなパンやケーキなどの試作を行っており、メニューを考案中です。パンやケーキには季節の野菜やフルーツを使用した商品も考えておりますので、楽しみにしていて下さいね！

製造者のこだわり

当工房では生地から製造し、ショートニングや保存料は一切使用せず、お子様にも安心して食べて頂ける工夫をしています。『ショートニング使ってるなら・・・』という声を多く聞きます。それなら、一切使用しないでおこうと決断しました。それと、パンの生地にバターの風味を少しでも出したいと思い、パン生地に練り込む油脂をバターのみにしました。風味豊かなもちもちのパンをどうぞお召し上がりください。

北海道視察の報告

主任　関口信人

2017年3月2日木曜日から3月4日土曜日までの3日間、北海道江差町にある社会福祉法人江差福祉会あすなろ学園へ視察に行きました。

視察に行き、私自身すさまじい衝撃を受け、これからの施設は支援費に頼らない施設を目指さなくてはいけないという想いが強くなりました。

表現するならば、“利用者が目的を持って働く”ことで、“利用者の生活の質”が上がります。地域と連携するために『福祉施設の役割』を明確にし、利用者の生活につなげるという事です。

江差福祉会では、独自に大きな工場を持ち、工場へ利用者が働きに行くという事を行っていました。工場内は構造化され、効率よく利用者が配置されていました。そして個々の能力を最大限に発揮できる仕事を提供されていました。しかも、その仕事は確実に『売れるもの』を作っているのです。今後に向けての開発も行っており、2つ3つ先の取り組みを考えているという事もお聞きしました。

自ら利益を生み出し、利用者、職員、職員家族に対して充実した福利厚生を行っていました。高い工賃を支払うだけではなく、常に楽しみや目標を生み出す取り組みをしていました。

私自身『利用者が働くとは何か』を改めて考えさせられました。『施設利用者が企業へ一般就労を目指す』という価値観では、常に変化する今の福祉制度では利用者の生活は守れないという事を改めて感じました。これからの福祉施設の作業の在り方として『施設が企業を頼る』ではなく、『企業が施設を頼る』を目指さなければいけないと感じました。

利用者が目標や、やりがいを持って仕事をすることで、利用者の生活の質も変わると江差福祉会を見学させて頂き、改めて感じました。なぜ高い工賃を目指さなければならないかを明確にすることで、利用者は働く楽しみを見つけ、職員は高い工賃を支払える仕事を見つけます。江差福祉会では年に数回、利用者、職員、職員家族で海外旅行に行っていて、その旅行を利用者がとても楽しみにしているという事でした。

また、地域貢献にも取り組んでいました。高齢者に対して、惣菜を提供し、高齢者が集まれる場所を作り上げていました。

今回の視察は全てにおいて衝撃的な事ばかりでした。めまぐるしく福祉の情勢が変わる中、これからの福祉はどのような方向で進んでいくのか分かりませんが、支援費に頼らない施設をめざし、こいしろの里はもっともっと力をつけ、成長していかなければならないのだと心に決意しました。

「まある」オープンイベント！

5月6日（土）

当日の予定

10:00 – 10:10 開会のあいさつ

10:10 – 12:00 バンド演奏

◆古立ＳＨＯＷＡバンド

◆スマイルクライ

◆夢工房♪おんぷ

◆Murphy Ohta & Friendship

◆三重大アンサンブル

12:00 – 13:00 昼食

13:00 – 13:15 あいさつ

13:15 – 15:15 記念講演 小倉謙

記念講演

講演者プロフィール
小倉 謙（おぐら ゆずる）
市民の人権擁護の会
日本支部（CCHR JAPAN）世話役
1968 年 川崎市出身

CCHR は市民団体で、主に精神医療分野に於ける人権侵害、不当な治療、不正行為などを調査・追及・告発などを行っている。1992 年に発足。近年になり問題が露見してきた精神薬による薬害などについてもその先鋒的な役割を果たしてきた。
今回は、この向精神薬や精神科（心療内科）での治療に関して長年調査を続けている市民の人権擁護の会 日本支部の世話役　小倉謙氏を招き講演をしていただきます。

おいしい屋台もあるよ！

やきそば
からあげ
フライドポテトなど

ちゃちゃもが来るよ！

楽しいイベント
もりだくさん！

（5 月）
5月14日　手作り市・Cotti 菜カフェ
5月20日　松阪駅前楽市　松阪ベルタウン
（6月）
6月25日　手作り市・Cotti 菜カフェ

出店予定